

令和6年2月号掲載

男女共同参画社会をつくる ～男女共同参画に関するQ&A～

暴力は、殴る、蹴る等の身体的暴力や、大声で怒鳴る、無視する、ばかにする等の精神的暴力等が挙げられます。パートナーからの暴力や、パートナー以外からの性暴力について、被害者が声をあげられなかったり、相談窓口に行かずに泣き寝入りしている現状があり、そうした生きづらさを抱える女性に対する支援を行うことで国が守ろうとしています。女性や若年層が被害に遭うことのない安心・安全な暮らしの実現に向かいたいものです。

Q104 「生命（いのち）の安全教育」とはどのようなものですか。

A104 文部科学省では、子供たちを性犯罪や性暴力の加害者・被害者・傍観者にさせないための「生命（いのち）の安全教育」を推奨しており、幼児期・小学校・中学校・高校の各段階に応じて授業等で活用できる教材や指導の手引き、大学生・一般向けの啓発資料等を公表しています。

「生命（いのち）の安全教育」では、生命の尊さを学び、性暴力の根底にある誤った認識や行動、また、性暴力が及ぼす影響などを正しく理解した上で、生命を大切に考える考えや、自分や相手、一人一人を尊重する態度等を発達段階に応じて身に付けることをめざしています。

具体的には、

- ・ 幼児期や小学校低学年等では、水着で隠れる部分を他人に見せない、触らせない、触られたら大人に言うなど、自分の身を守ることの重要性
 - ・ 小学校高学年では、自分と相手を守る「距離感」の概念や、SNSの危険性
 - ・ 中学校では、小学校高学年の内容に加えて、いわゆる「デートDV」等
 - ・ 高校では、中学校の内容に加えて、性暴力の実態に関するデータや、セクハラ、二次被害の予防等
- について取り上げています。高校卒業前、大学、一般向けの啓発資料には、身近な被害実態や性暴力が起きないようにするためのポイント、性暴力被害に遭った場合の対応・相談先等を記載しています。

<p>幼児向け教材例</p> <p>みずぎでかくれるところは じぶんだけの だいじなところだからだよ</p>	<p>中学生向け教材例</p> <p>性暴力の例【デートDV】</p> <p>DV（ドメスティック・バイオレンス）とは、結婚している相手など親密な関係の相手からみられる暴力のことです。恋人同士の間で起こる暴力のことを「デートDV」と言います。</p> <p>どんなことがデートDVになるの？</p> <table border="1"> <tr> <th>身体的暴力</th> <th>精神的暴力</th> <th>性的暴力</th> <th>経済的暴力</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ● 暴力を手段として、相手を思いどおりにしたり、一方的に言うことを聞かせようとする。 ● 殴る、蹴るといった体に対する暴力だけでなく、相手をバカにしたり無視をするといった行為もDVです。 <p>こんな思い込みをいませんか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 相手を助けるより、相手を責めることの方が効果的だ ● 相手の暴力は自分から誘ったせいだ ● 別れようと思えば別れることができる <p>親しい関係でも自分と相手の気持ちを大切にしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自分がいやだと思ったことはいやと言え ● 相手がいやがることはしない 	身体的暴力	精神的暴力	性的暴力	経済的暴力				
身体的暴力	精神的暴力	性的暴力	経済的暴力						
<p>小学生向け教材例</p> <p>SNSを使うときに気をつけること</p> <p>SNSでやりとりしている相手は 本当に信らしたい人なのかな？</p>	<p>高校生向け教材例</p> <p>性暴力が起きないようにするためには</p> <p>性暴力の被害者と加害者を生まないためには、自分を大切に、相手も大切に、相手とよりよい人間関係をつくっていくことがとても大事です。</p> <p>よりよい人間関係をつくることは、性暴力を防ぐことにつながっていきます。</p> <table border="1"> <tr> <th>自分を大切に</th> <th>相手を大切に</th> <th>暴力をゆるさない</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>SNS等を通じた被害を例にとると...</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の下着袋や財布の写真を隠したり、使わない 相手の下着袋や財布の写真を隠したり、SNSで公開しない 誰かの性的な写真が送られてきたら、そのままにしないで被害者や加害者に知らせよう 	自分を大切に	相手を大切に	暴力をゆるさない					
自分を大切に	相手を大切に	暴力をゆるさない							

「生命（いのち）の安全教育」教材例



文部科学省における取組として、令和4年度は教員向け研修動画の公開及び児童生徒向け動画教材の活用等を周知し、「生徒指導提要(令和4年12月改訂版)」では新たに、性犯罪・性暴力に関する対応について、生徒指導の観点から整理し、課題未然防止教育として「生命(いのち)の安全教育」の実施を位置付けられました。今年度は、学校等における「生命(いのち)の安全教育」の実践を後押しするための取組として教育委員会、大学等に対して、これまでのモデル事業を基に作成した実践事例集を周知し活用されています。

このように小さい頃から「生命(いのち)の安全教育」を学び、適齢期に応じて習得することによって、自らの意思が表現でき、危険性を察知できるようになって、誰にでも簡単についていかない、SNS等むやみに連絡しない等対処できるようになるのではないかと考えます。

子供たちを性犯罪や性暴力の加害者・被害者・傍観者にさせないために啓発活動も重要ですが、身近な大人が、耳を傾けてあげることが大事なことも知れません。

資料出所 共同参画 2024年1月号

